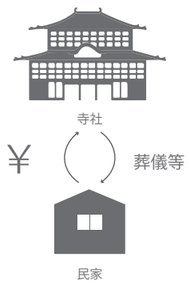
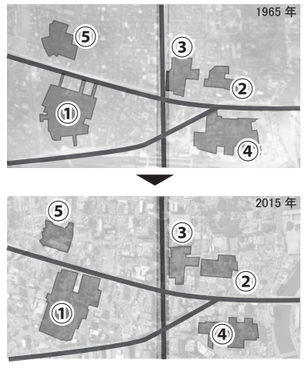
# ひらかれる都市の裏側

## 01. 背景 - まちの中心的存在から裏側へと変容する寺社 -

かつての寺社は檀家制度や寺小屋制度故に社会的に重要な地位を確立しており、街のシンボル的な存在であった。
しかし高度経済成長以降、寺社のアイデンティティーは失われ、現在は周りを無関係な建物や無秩序に広がるパーキングに覆われ、街の裏側の位置に存在していると言える。



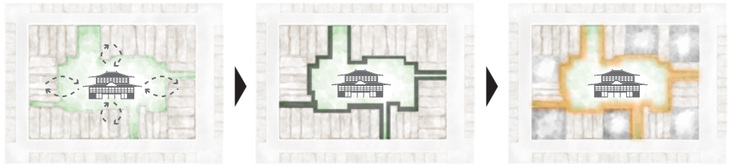
＜檀家制度＞



＜寺社面積の変化（減少）＞

## 02. 提案 - 都市を次第に裏側へとひらかせる境界 -

寺社の境内を保護するように境界を設ける。境界は擁壁としての機能を果たしつつ、隣接する建物に新しい開放的な面を提供する。新たに表出した面により、次第に建物自体のふるまいも変化し、街の裏側にある寺社の方向にひらかれていく。



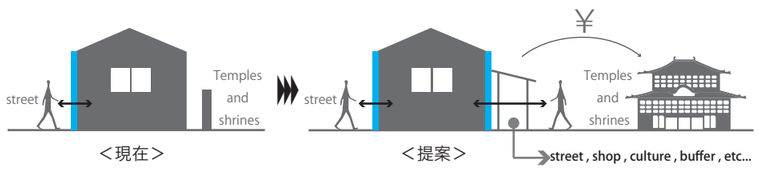
高度経済成長期を境に弱まる檀家制度
＝街と寺社の関係乖離

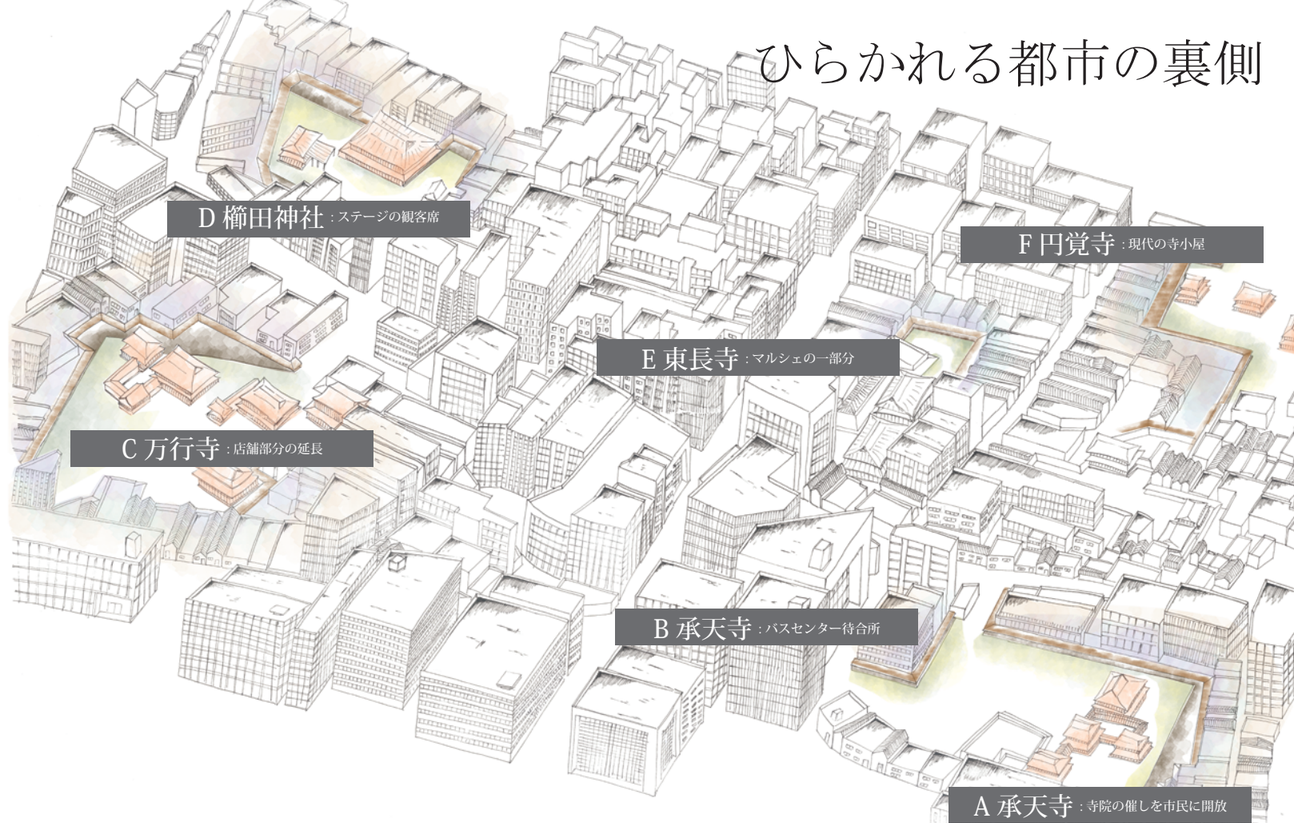
境内の敷地の外周に境界を設ける
＝境内敷地を保護

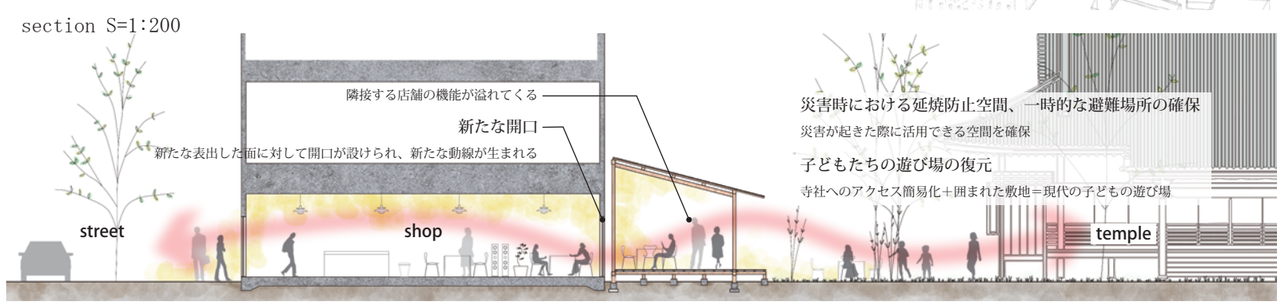
新たな面の表出により次第に建物のふるまい変化
＝街が裏側へひらいていく

## 03. 展開 -「境界」は守る役割からひらく媒体へ -

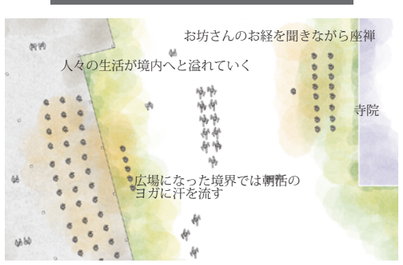
新しく面を持つことで商業の集客増加を促す。その売り上げの一部を寺社に寄付することで、寺社経営の新たな収入源となる。
当初は保護としての機能であった境界が、裏側から都市へひらかれていくことで、街の表と裏をつなげ、寺社と博多の街の新たな関係性が築かれていく。



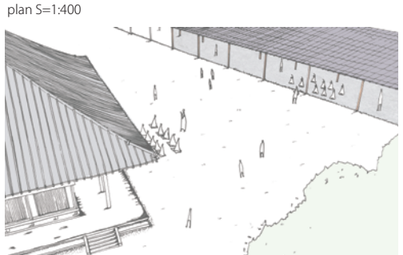



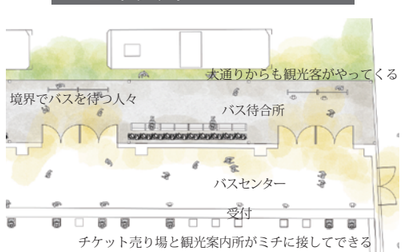

### A 承天寺 : 寺院の催しを市民に開放



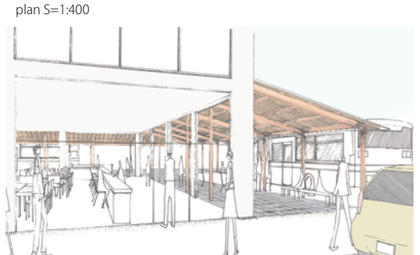
plan S=1:400


承天寺を見下ろす
寺院の催しを市民が参加し、開かれた寺院となる

### B 承天寺 : バスセンター待合所



plan S=1:400

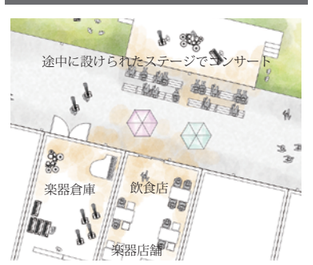

既存道路よりバスセンターをみる
境界部分がバスの待合所となる

### C 万行寺 : 店舗部分の延長

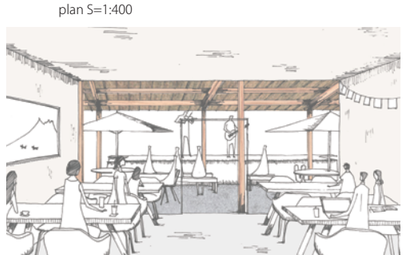
plan S=1:400

境界部分から店舗をみる
寺社方向に新たな面が表出し、新たなにぎわいが生まれる

### D 櫛田神社 : ステージの観客席



plan S=1:400

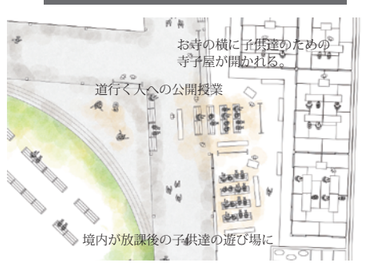

店舗から神社をみる
市民に開放されたステージ

### E 東長寺 : マルシェの一部分

plan S=1:400

寺院からマルシェをみる
新たな開口が設けられ、既存の道路まで視線が抜ける

### F 円覚寺 : 現代の寺小屋



plan S=1:400

境界部分を見渡す
現代の子どもたちの遊び場となる